

学 年	小4年	郡 市 名	幸 田
提 案 者	幸田町立荻谷小学校		清水 裕司

1 研究主題

人やものに関わり合い、学んだことを生活に生かそうとする児童の育成
～4年社会「ごみ博士を目指そう」の実践を通して～

2 主題設定の理由

本学級の児童は、好奇心旺盛で新しく学ぶことに対して前向きである。実験や運動といった体を動かすことを中心に進んで学習に取り組み、「楽しかった」「〇〇ができてうれしかった」と感想を述べる児童が多い。

一方で、学習したことを自分事としてとらえられない子が多くいることを感じ、学習したことを実生活に生かしていけるようになってほしいと思うようになった。社会科の授業では、単元「くらしを守る」において、交番や消防署、浄水場の見学へ行き、人々のくらしを守るために働く人たちの苦労や思いを知ることができた。自分の命は自分で守ること、水を大切に使うことなどを学んだ。ところが、防犯ホイッスルの着用をしない子や水道の水を出しっぱなしにする子がおり、学習したことを実生活に生かすところまで子どもたちの意識が至っていないことを感じた。「楽しかった」「〇〇ができた」で終わらせるのではなく、学習したことを自分の実生活に生かしていくことができれば、やがてそれが様々な場面での社会参画につながってくるのではないかと考える。

そこで児童にとって身近であるごみ問題についての単元を組むことにした。学習を通して、多くの人や資料と関わり合うことで、学んだことを自分事としてとらえ、それを生活に生かそうとする児童になってほしいと願い、本研究に取り組むこととした。

3 研究の仮説と手立て

(1) 研究の仮説

主題に迫るために、次のような仮説を立てた。

- 〈仮説1〉 児童にとって身近なごみ問題を取り上げながら、自分たちの住む町のごみ政策を理解できれば、実生活に結び付けて、自分にできることを考えられるようになるだろう。
- 〈仮説2〉 多くの人や様々な教材と関わり合うことで、社会的事象を多面的・多角的に捉え、学びを深めることができるようになるだろう。

(2) 研究の手立て

〈仮説1を検証するために〉

手立て① 様々な資料をもとにした一人調べで、ごみの実態を感じられるようにする。

授業の進度に合わせて、「ごみ調べ」やごみステーションの見学を行うことにより、身の回りのごみに意識を向けさせる。幸田町のごみの分別表や市町村別のごみの量の一覧表などの資料を教室に掲示したり、配付したりすることで、児童の考えを深める。自分の一人調べに、資料から得られる情報をすり合わせていくことで、自分事としてとらえる力をつけていくことができると考える。ごみが自分たちの生活に大きく関わっていることに実感させることで、ごみを減らすために自分にできることを考えることにつながるだろう。

〈仮説2を検証するために〉

手立て② より多くの「生」の声、実物と関わり合う機会を確保する。

クリーンセンターへの見学、外部講師を招いての環境学習、役場への聞き取り調査など、様々な人や物と関わり合う機会をつくる。児童が現場の「生」の声や実物にふれることで、自分の考えを深め、新たな視点をもつことにつながるだろう。また、そこから、自分たちの町のごみ政策へ目を向ける。愛知県内でごみの少なさが1位という実績や独自の価格設定をするごみ袋などを取り上げることで、追究意欲を高めることができるだろう。

手立て③ 根拠を明確にした意見交流の場を作る。

見学で学んだことや一人調べたことを共有する場を設定することにより、多様な考えにふれながら、自分の意見を深める。意見交流にあたっては、自分がなぜそう考えるのかという根拠を明確にすることで、深まりのある意見交流を目指したい。

(3) 抽出児

仮説を検証するために、A児の姿と学級の様子をワークシートや授業記録をもとに明らかにする。

個の学びを実生活と結びつける力が弱い。本単元を通して、様々な資料や人と関わり合う中で、自分にできることを考え、それを実際に行動に移せるようになってほしい。また、自分の考えを行動に移すことの大切さにも気付かせ、社会参画の第一歩につなげたい。授業では、自分の考えをもって発言することができるA児の発言や記述を取り上げ、全体の学習に深まりをもたせたい。

(4) 単元構想

本実践の単元構想図については以下に示したとおりである。(添付予定)

4 単元構想図(社会18時間、とぼね4時間)

登下校の途中にごみをたくさん、お父さんやお母さんが毎週決まった曜日、学校では燃えるごみと紙見つけたよ。にごみ捨てに行っているよ。ごみに分別しているよ。

身の回りのごみ調べをしよう! (2) ※1 ※2 ※3

<p>【毎日出るもの】</p> <p>燃やすごみ、ミックスペーパー、プラスチック</p> <p>【たまに出るもの】</p> <p>ペットボトル、アルミ缶、びん など</p> <p>・普段は意識していなかったけど、思ったよりたくさんのごみが出ていることがわかったよ。</p>	<p>【ごみ捨てで気をつけていること】</p> <p>・分別するようにしている。</p> <p>・分別がわからなかったら、大人の人に聞くようにしている。</p> <p>・ペットボトルは、中を洗ってから、ラベルを外して捨てるよ。</p> <p>・特に気をつけていることはないよ。</p>	<p>【ストップ温暖化教室】(とぼね2)</p> <p>・ごみを燃やすと、たくさんの二酸化炭素が出るよ。</p> <p>・二酸化炭素が増えると、地球温暖化が進んで、生き物が絶滅したり、自然災害が発生したり、大変なことが起きるよ。</p> <p>【環境学習講座】(とぼね2)</p> <p>・生き物を守るためには、ごみを減らした方がいいことがわかったよ。</p>
--	--	--

・ごみ収集車を見たことがあるよ。回収したごみはどこに行くのかな。

・分別は難しいし、面倒くさいな。何のために分別をするんだろう。

・ごみを減らした方がいいことがわかったよ。環境を守るためにどんな取り組みをしているんだろう。

ごみは回収されたあと、どうなるんだろう。

あれ

ごみ収集について調べよう (8) ※4 ※5

近くのごみステーションに行ってみよう ※4

・ごみがたくさん出て、くさいなあ。

・いろんなごみがあって、回収するのが大変そう。

・回収されたごみはどこに運ばれて、どうやって処理されるんだろう。

・こんなに細かく分別されていたなんて知らなかった。

・ごみ処理場に運ばれて行くんだって。

八帖クリーンセンターの見学に行こう ※5 ※6

<p>【クリーンセンターについて】</p> <p>・1日100tのごみを処理する。</p> <p>・24時間ずっと、中央制御室で異常が起きないかどうか監視している。</p> <p>・800度~950度でごみを燃やす。</p> <p>・灰は最終処分場に運んで埋める。</p> <p>・燃やすごみとそれ以外のごみで分けて処理する。</p>	<p>【働く人の思い】</p> <p>・においや暑が大変だよ。</p> <p>・環境が悪くならないように、有害なガスが出ないようにしたり、発電をしたりしているよ。</p> <p>・事故が起きないようにごみの分別をしっかりしてほしいな。</p> <p>・埋め立てられるごみの量には限界があるから、ごみを減らしていかなければいけないんだよ。</p>
---	--

・たくさんのごみを処理するのは、とても大変なことがわかったよ。

・ごみが増え続けると最終処分場がいっぱいになっちゃうよ。

ふうん

ごみを減らしていけないといけないうね

ごみを減らす取り組みについて調べよう (6) ※7

<p>【幸田のごみ】</p> <p>・2008年までごみの量が減っているけど、2009年にすく減っているよ。どうしてだろう。</p> <p>・幸田町は一人あたりのごみの量が、愛知県の中でいちばん少ないんだって。</p>	<p>・2009年から、リサイクルやごみの分別が始まったんじゃないかな</p> <p>・ごみ袋の値段が高いから、ごみ袋代を節約するためにごみの量を減らしていると思う。</p>
---	---

ごみ袋のひみつを探ろう ※8 ※9

<p>【幸田町】</p> <p>大サイズ 45L</p> <p>10枚で450円</p> <p>袋 燃やすごみのみ</p>	<p>【岡崎市】</p> <p>大サイズ 45L</p> <p>10枚で159円</p> <p>袋 種類がたくさん</p>	<p>【蒲郡市】</p> <p>大サイズ 45L</p> <p>10枚で131円</p> <p>袋 種類がたくさん</p>	<p>【西尾市】</p> <p>大サイズ 45L</p> <p>10枚で116円</p> <p>袋 種類がたくさん</p>
---	---	---	---

・幸田町だけごみ袋の値段が高いよ。他の市は安いのかな。

・ごみ袋の値段がこんなに違うなんてびっくり。何か秘密があるのかな。

そうか

あれ

幸田NO.1のひみつを探ろう ※10 ※11 ※本時(6/6)

・2009年からレジ袋が有料化したことにより、ごみの量が少なくなったよ。

・ごみ袋の値段が高いと言われるけど、ごみを減らすためには仕方ないんだよ

・幸田町が県内でいちばんというのは誇りに思っているよ。幸田の自慢の1つだよ。

・家では、かさばらないようにごみを細かくしたり、洗えるものは洗ってから捨てているよ。

・4西では給食の完食を続けて、生ごみを減らせるようにしているよ。

役場の人の話

なるほど

ごみを減らすために、様々な努力をしているんだね。

幸田町がこれからも、ごみの少なさ1位でいられるようにしていきたい

ごみを減らすために自分たちにできることを考えよう (2) ※12 ※13

・ごみの分別に気をつけよう。

・ごみの分別も大事だけど、ごみを出さないようにするというのも大切なんじゃないかな。

・5R(リフューズ:不要なものもらわない、リデュース:ごみを減らす、リユース:再利用する、リペア:修理して使う、リサイクル:再び資源として利用する)を意識して生活しよう。

もっと

ごみを減らすには、一人ひとりの心がけが大事だね。

もっともっとごみを減らせるように、みんなに呼びかけよう。

○感性や問題意識を高める活動

- ※1 自分の家のごみ調べという身近な学習から、ごみの実態に関心をもち、
- ※2 家族や大人にインタビューをしながら、ごみに関する情報を自分たちで集める。
- ※3 「ストップ温暖化教室」や「環境学習講座」を受け、ごみ問題と地球環境が繋がっていることに気づかせる。

《教師支援》 ◆言語活動

- ※4 学校近くのごみステーションに行き、分別の状況及び回収の様子を見学し、回収後のごみの行き先に興味をもたせる。
- ※5 クリーンセンターの見学の際に、最終処分場に限界があることから、ごみを減らさないといけないということに気づかせる。
- ※6 環境学習をふりかえらせることで、生き物のためにもごみを減らさないという意識をもたせる。
- ※7 ごみに関する幸田町の様々なデータを集めながら、幸田町のごみ事情に目を向けさせる。
- ※8 ごみ袋の比較を通して、幸田町が他の自治体と違うということを意識付け、なぜそのようになっているか予想し、話し合う。
- ※9 ごみに関するデータとごみ袋の比較から生まれた疑問を、自分たちでどう解決したらいいか考えさせる。
- ※10 役場の人の話を聞いて、自分たちでは知り得なかったごみを減らすための政策や努力に気づかせる。
- ※11 「幸田町がNO.1」ということに注目し、幸田町ならではのよさを話し合う。
- ※12 ごみを減らすための作戦を考え、発表させる。
- ※13 ごみを減らすためには、様々な方法があるということを知る中で、自分にできそうなことを選び、実行させる。

4 授業の実践と考察

第1～2時 ② ゴミ調べから児童のごみに対する関心を高める（手立て①・③）

単元を始めるにあたり、「ゴミ調べ」を行った。まず、自分の家のごみ出しの日・自分の家のごみを出すゴミステーションの場所を知っているかを確認したところ、ほとんどの児童が把握していることが分かった。ただ、実際にごみ出しに行ったことがあるかを尋ねると、A児も含め、半数以上は「ない」と答えていた。また、自分で分別ができるか、分別する際にどんなことに気をつけているかということについてA児は、分別は「できる」が、気をつけていることは「特にない」と答えた。このことから、A児には、ごみ出しやごみの分別に対する知識はあっても、関心はないということを感じた。

家庭でのゴミ調べでは、子どもたちが思っているよく出るゴミ7種類（燃やすゴミ、プラスチック、ミックスペーパー、不燃ゴミ、ペットボトル、アルミ缶、びん）が1週間でどれくらい出るのかを調査することにした。1週間後に調査結果を発表し、気付いたことを出し合った。

② ゴミ調べをしよう！

ゴミの種類	14日(土)	15日(日)	16日(月)	17日(火)	18日(水)	19日(木)	20日(金)
燃えるゴミ	○	○	○	○	○	○	○
プラスチック	○	○	○	○	○	○	○
ミックスペーパー	○	○		○	○	○	○
不燃ゴミ	○			○			○
ペットボトル	○	○	○	○	○		
アルミ缶							
びん				○			

? その他のゴミ、分別不明のゴミ?

ダンボール

☆気づいたこと

燃えるゴミとプラスチックは毎日出る。その2つは9割のイメージだね
ミックスペーパーは思ったよりたくさん出る
アルミ缶とびんはあまり出ない
火曜日はたくさん出る → 何で?!

発表をしながら、【資料①】A児のごみ調べの中にも、よく出るゴミとあまり出ないゴミがあることが分かってきた。A児の「ゴミ調べ」でも、同様の結果が得られた【資料①】。各家庭でそれぞれではあるが、大体の傾向として、「毎日出るゴミ」（燃やすゴミ、プラスチック、ミックスペーパー）と「たまに出るゴミ」（ペットボトル、アルミ缶など）に分けられることがわかった。

第3～6時 ③ ゴミへの関心をより高めるための環境学習（総合的な学習）（手立て②）

ゴミ調べを通して、自分の家でごみの実態をつかんだ後、ごみを減らしていかないといけないという切実感をもたせるために、外部講師を招いて環境学習を行った。子どもたちは環境学習を通して、ごみを出せば、それを処理するために燃やさないといけない、燃やすことによっ

て二酸化炭素が放出され、それが地球温暖化につながるという、環境問題の大枠をつかむことができた。また、ごみを捨てると、他の生き物が食べ物と勘違いして、ごみを食べて死んでしまうということや体を傷つけてしまうということを知ることができた。環境保全に向けて、実際に活動をしている外部講師の「生」の声を聞くこと、実際に現場で撮った「本物」の写真を見ることで、ごみ問題に対する追究意欲を高めることにつながった。また、講座の最後に「こんなときどうする?」という実生活でよくある場面を想定したクイズに取り組み、誰も見ていないときはテレビを消すことや、買い物に行くときはマイバックを持参することなど、環境問題とごみ問題、両方への視点をもつことができた。A児は、環境学習のふり返り【資料②】に「電気を使わないときはけす」のように、生き物を守るために、自分の生活を見つめてできることを考えることができた。同時に、「できることはしたい」とも書いていたが、ごみを減らしていくために自分がやっていきたいことについては、まだ具体的なイメージが湧いていない部分もある様子だった。

第7～8時 ④ ゴミステーションへの見学（手立て②）

ゴミ調べと環境学習を通して、子どもたちは燃やされるゴミとリサイクルされたり、再利用されたりするゴミがあるということを知った。自分の家から出されたゴミがどのように処理されるのかについての関心が高まってきたところで、ゴミステーションへ見学に行くことにした。